

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



祭りだ祭りだ！夏祭り♪



御神輿も出て、
みんなで
楽しみました♪

4階病棟 行事「夏祭り」

医療措置協定の締結について

令和6年4月から感染症法に基づき、都道府県と医療機関は、その医療機能・役割に応じた協定(医療措置協定)を締結することになっています。新型コロナウイルス発生時の対応で色々な問題があったことから、それらの課題への対応を念頭に協定を締結することになっており、それぞれの医療機関の機能や役割に応じて病床を確保する医療機関(第一種協定指定医療機関)や発熱外来・自宅療養者等への医療提供を行う医療機関(第二種協定指定医療機関)などに指定されることとなっています。

当院も国立病院機構の病院として、これまで新型コロナウイルスへの様々な対応を行ってきました。また今後もこの地域での当院の役割を果たすべく福井県の感染症対策に協力を行っていきけるよう検討を進めています。

しかし新型コロナウイルスは五類感染症に指定替えはされましたが、未だに感染が完全に終息したとはとても言えない状況が続いており、医療機関への負担は余り軽くなってはいません。まずは新型コロナウイルスが終息してほしいと願うばかりです。



事務部長
西村 和彦

感染症

内科医師 伊藤 和広

本年5月8日から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、5類感染症に位置づけが変更されました。そのため、全数把握から定点把握の感染症となり、また報道でもそれほど取り沙汰されないことから、流行の実態が不明瞭になってきた印象があります。しかし、現在は明らかに第9波が進行しており、福井県では全国平均よりは低いものの、最近の感染者は定点あたり12.67人であり、徐々に増加してきています。変異株では、新たにEG.5(通称エリス)株が優位になっています。EG.5株は重症化率はこれまでと変わらないようですが、これまでより感染力が高いことや免疫回避能力に注意が必要です。ワクチンについて新たな変異株に対

応するワクチンが承認され、EG.5株にも効果があると報告されています。COVID-19に対するワクチンの影響に関して、3回以上接種した人は全身症状が現れにくく、2回接種よりも3回接種の方がより強い影響が持続するという報告があります。症状や重症化に影響するため、今後も積極的なワクチン接種を検討することが必要であるとともに、日常の感染対策(医療機関や混雑時のマスク着用、手洗い、手指消毒など)も重要であることに変わりはないと思われ



地域総合診療在宅移行支援

総合診療科科長 鈴木 友輔

2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症へと変更となり法律に基づく自粛要請等は無くなりましたが、依然として感染者数は多く新型コロナウイルス感染症が日常生活に大きく影響を及ぼしています。このような状況の中では以前にも増して住み慣れた

医療レベルになるように、あるいは入院での生活が在宅生活のレベルになるように、医療の充実を図ってきました。地域包括ケアシステムの枠組みの中で、外来・入院・在宅、そして看取りまでのあらゆる段階での医療を継続できるようにしています。



地域で在宅での生活を継続することが重要になっていると思われ

ます。当院では2013年から「Hospital in the home , Home in the hospital」の概念のもと、在宅での医療が入院

今後も地域に根ざした病院総合診療を継続していけるように臨床だけでなく教育活動の充実も図りながら、住み慣れた地域で最期まで暮らしていけるようにする地域包括ケアシステムの枠組みの中での当院の役割を十分に果たしていきます。

当院のコミュニケーションツール紹介ー入力スイッチ編ー 作業療法士 小林 純也

前回、高位頸髄損傷や神経難病の患者さんが使用する意思伝達装置を紹介しましたが、今回はその装置の操作に必要な入力スイッチを紹介します。

スイッチはプッシュ型とセンサー型に分けられます。

プッシュ型スイッチ(写真1)は押した時の感覚がありセッティングも比較的容易な点が特徴です。しかし押すための筋力が不十分な方には不向きです。

センサー型スイッチはプッシュ型スイッチを押せない患者さんに適しており、セッティングが難しくなりますが、額や口など顔面の動きでも操作できます。

当院は14種類の入力スイッチを備えてい

ます。センサー型で使用頻度の多い「PPSスイッチ®」(写真2)は皮膚のひずみや空気圧のわずかな変化にも反応します。他にも眼球の動きを利用する視線入力装置や筋電や脳波に反応する「MCTOS®」(写真3)も導入しています。

患者さんの状態に合わせて各種スイッチを選別し、意思伝達装置で意思疎通を図れるよう支援を行っています。



【写真1】



【写真2】



【写真3】

地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

社会福祉法人かすみが丘学園 相談支援事業所サポートセンターかすみ 坂井地区障がい者基幹相談支援センター



当法人は丸岡町中心部にて、相談支援事業所サポートセンターかすみと、坂井地区障がい者基幹相談支援センター（あわら市・坂井市委託事業）を設置し運営を行っています。

サポートセンターかすみでは、障害のある方一人ひとりが、地域で自分らしく豊かな生活を送るために必要な福祉サービスの調整や、地域生活への移行・定着に向けたサポートを行っています。幼児期から介護保険移行期の方、また医療的ケアが必要な方など多岐に渡る相談をお受けし、各関係機関と連携を図りながら対応しています。相談支援専門員の5名のスタッフは、日々の出会いに感謝し、この地域で、さわやかな笑顔を増やせるよう取り組んでいます。

また併設する坂井地区障がい者基幹相談支援センターでは、地域の相談支援専門員の育成や、権利擁護、地域移行／地域定着支援等の推進、より専門的な相談支援に関する業務を総合的に行っています。更に機能強化事業として、一般企業への就労支援も行っています。

今後もスタッフ一同、「丁寧に誠実に」を心がけて業務にあたりますので、お気軽にお声掛けください。よろしくお願いいたします。



**社会福祉法人かすみが丘学園
相談支援事業所サポートセンターかすみ**
〒910-0236 坂井市丸岡町本町2-50
TEL0776-66-0930 FAX0776-63-5442

坂井地区障がい者基幹相談支援センター
〒910-0236 坂井市丸岡町本町2-50
TEL0776-60-0070

地域医療連携室便り

地域医療連携室 退院支援看護師 福嶋 志保子

退院支援看護師も新しい職員を迎え半年が過ぎようとしています。退院支援看護師は主に後方支援部門で患者さんの退院後の生活に関する相談事に対し支援を行っています。また、退院後に関する支援だけでなく入院を予定している患者さんが入院生活をイメージでき、安心して入院治療が受けられるようにすることを目的に入院時支援も実施しています。今回は入院時支援についてお話しします。

入院時支援の面談は外来診療時に入院の予定が決まった患者さんに対し退院支援看護師、薬剤師と栄養士で多職種協働し実施します。入院中に行われる治療の説明、入院生活に関するオリエンテーション、入院前の服薬状況の確認、褥瘡・栄養スクリーニング等を実施しています。具体

的には看護師より身体的・社会的・精神的背景を含めた情報の確認を行い、介護保険の利用の有無などについてもお伺いします。薬剤師からは現在内服中のお薬やお薬のアレルギーについてお伺いし、入院中の支援内容をお伝えします。栄養士も体重の増減や消化器症状の有無についての聞かせていただき、薬剤師同様支援内容をお伝えいたします。最後に再度、看護師より入院中の生活や必要物品などご説明いたします。

あわら病院地域医療連携室では安心して入院から退院を迎えられるよう入院前からの関わりも大切にしています。



外来担当医表

(令和5年10月2日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔 ^(第1・2・3・5) 見附 保彦 ^(第4)	野村 量平 ^(第1・3・5) 辻 俊比古 ^(第2・4)
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	湯浅 光織 ^{(第1・3・5)*} 福岡 諒 ^{(第2・4)*}	川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 ^(第2・4)
	生活習慣病			鈴木 友輔 ^(第2・4)		伊藤 和広
	老年					栗田 敦 ^(第1・3・5)
	神経			佐々木宏仁 ^(第1・3・5)		
	循環器			見附 保彦	見附 保彦	
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	伊與部 貴大				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美*			
	地域ケア	鈴木 友輔*				
禁煙外来	見附 保彦					

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:40~11:30)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



栄養サポートチーム便り

栄養管理室 主任栄養士 谷口 恵美

当院には障害や加齢、治療による影響で嚥下機能が低下する入院患者さんがおられます。嚥下障害により食事を口から食べることが難しい患者さんに栄養補給方法として「経腸栄養法」を提案することがあります。経腸栄養法は鼻やお腹から胃・小腸等の消化管にチューブを介して栄養剤等を投与する方法です。点滴(静脈栄養)と比べ消化吸収能を利用するため生理的であることが知られています。さらに、腸管粘膜の萎縮防止による免疫能の維持や腸管蠕動運動の正常化、TPNに伴う感染性合併症リスクの低減などのメリットがあります。栄養サポートチームでは、薬剤師や栄養士が医薬品・食品それぞれの経腸栄養剤の選択について院内で勉強会を実施しました。今後も患者さん一人一人のACP・疾病や栄養状態に応じて、適切な栄養管理を多職種で検討していきます。



居宅訪問型児童発達支援

療育指導室 保育士 松浦 いづみ

令和5年10月1日より多機能型通所施設あおばは、新たに居宅訪問型児童発達支援事業を始めることになりました。重度の障害のある児童、医療的ケアが必要な児童、重い疾病で感染症にかかるおそれがある状態にある児童、様々な理由で外出することが著しく困難な障害児(満18歳まで)を対象に療育活動や生活能力の向上のために必要な訓練を保育士が居宅に訪問して支援を行います。あわら病院の方針である「多くの人の笑顔のために」を基に、一人ひとりの成長、発達に合わせて、みる・きく・かぐ・ふれる・あじわう等の五感に働きかける活動を中心に療育を行い、嬉しい・楽しいことをお子さん・ご家族の方と一緒に感じられる時間を大切にしていきます。小さな発見を大きな喜びにつなげて、心に寄り添う支援を目指していきます。



独立行政法人
国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北湯238-1
TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
(地域医療連携室) FAX.0776-79-1261
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]
JR北陸本線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017